



地域の医師は地域で育てる

平成16年に新たな研修医制度が始まり、研修医は2年以上の研修を義務づけられるとともに、研修先の病院を自由に選択できるようにになりました。

この結果、都市部には、高度な医療を学ぶことのできる病院が多いことや、複数の診療科目で研修できるプログラムが組まれていることから人気が集まり、地方の研修医が不足する状況にあります。

そこで県では、「地域の医師は地域で育成・確保する」という考えのもと、県内17の初期臨床研修病院と連携し、研修医の確保やその育成を目指す新たな組織「新・鳴滝塾」を昨年7月に設立しました。

この新・鳴滝塾（下記イメージ図参照）では、県内の長崎・県央・県北の3地区で、それぞれの地区内を中心とする病院や他の研修病院、協力病院が相互に連携する

とともに、地区の垣根を越えてさまざまな病院で研修ができる体制の整備を進めています。

これにより、研修医の幅広い希望にあわせた研修プログラムづくりが可能となり、本県を研修先に選ぶ医師が増えることが期待されます。

この「新・鳴滝塾」の設立を契機として、本県の医師確保の取組が今大きく変わろうとしています。

医学生らに県内17病院がPR 県内初の合同説明会を開催!

昨年10月には、新・鳴滝塾の取組の一環として、医学生や研修医、UIターンを希望する医師を対象にした合同説明会が長崎市で開かれ、県内外から140人を上回る医学生らが参加しました。

県内17の研修病院を一堂に集めての説明会は今回が初めてで、参加者はみな真剣な表情で病院の設備や研修内容などに関する担当者の説明に耳を傾けていました。



この合同説明会は、研修病院にとってはその魅力をPRするまたとない機会となるとともに、研修情報を求める医学生にとっても貴重な場となりました。

この合同説明会が実を結び、一人でも多くの研修医の確保につながることを期待されます。

県では、この新・鳴滝塾をさらに充実させていくため、来年度も各種の研修医支援事業を拡充し、研修医にとってよりよい環境整備に取り組んでいきます。

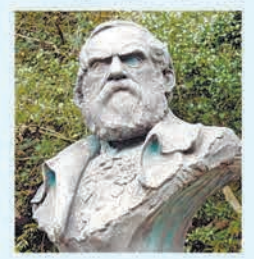
そして、将来的には、長崎・県央・県北の3地区それぞれの中心となる病院内に医師・看護師などの教育・研修やキャリア形成のための支援を行う地域医療研修センターの設置を目指しています。

この新・鳴滝塾が全国から多くの若い優秀な医師が集まる希望の受け皿となり、将来の長崎の医療を支える礎となるよう、今後も積極的に取組を進めていきます。

新・鳴滝塾について、事務局長に話を聞きました!

新・鳴滝塾という名前の由来は

長崎は日本における西洋医学発祥の地です。江戸時代にシーボルトが開いた鳴滝塾には、医師を志す多くの若者が集まりました。そんな歴史ある長崎に再び全国から若い医師を集めたいという思いが込められています。



研修医を呼ぶためにまず必要な取組は

県内には優れた研修制度がありますが、あまり知られていません。まずはもつとPRすることが必要です。そのために県内外で合同説明会などを行っています。

また、魅力あるプログラムをつくることも重要です。高度医療や地域医療など、それぞれの研修病院が持つ得意分野を組み合わせることで、都会の病院に負けない、高レベルかつ幅広い研修医の希望にあわせたプログラムをつくることができます。



長崎大学病院キャリア支援室 はまだ ひさゆき 濱田久之准教授

その他の取組は

研修医を育てる指導医の育成も大切です。海外の著名な医師を招いた講習会を開くなど、力を入れています。また、医師の勤務は長時間で不規則なことも多く、育児などで離職している女性医師の復帰が厳しい環境にあることから、その環境改善にも取り組んでいます。



カナダから招いた医師による講習会

これからの目標は

今後、多くの若い医師を長崎県に集め、この新・鳴滝塾から、世界的に活躍できる医療人を輩出していくのが目標です。

